

インターバンクの声（2017年2月28日）

トランプ大統領の議会演説まで為替相場は大きく動くことはないだろうとの見方が一般的で、昨日の東京市場の円相場は、昼過ぎからは112円台前半での値動きに終始した。

ロンドン市場でも大きな変化はなく、ニューヨーク市場もこのまま進むかと思われた。ただ、短時間で勝負している人たちは利食うにしろ、損切るにしろ、どこかでポジションを畳みたいと考えており、その材料にしたのが米耐久財受注のコア資本財や米中古住宅販売仮契約指数の予想外のマイナス結果だった。極端に動いたわけではないが、111円台に再突入したためドルの一段安かとも思われた。

ところが日本時間の午前2時あたりからドルは上昇に転じ、4時過ぎには112円80銭台を付けた。トランプ大統領が米大手医療保険会社幹部らとホワイトハウスで会合した後に、オバマ・ケア（医療保険改革法）の代替案について、28日の演説で話すと伝わった際には大きな反応はなかったが、このドル上昇の背景はカプラン・ダラス地区連銀総裁の発言だったようだ。

カプラン総裁は、インフレ対応で後手に回らないように、早いうちに利上げの必要があるとの認識を示し、市場の3月利上げ観測を高めたためだ。この後、ドルがさらに上昇するにはトランプ大統領の演説が満足な内容となる必要がある。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。